

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

児童生徒一人ひとりの個性と可能性を大切に、「楽しく学び、ともに育ち、豊かに生きる」教育の実現を図る。

○よりよく生きるための知識と理解を培う。

自分自身の病気に対して正しい知識を持ち、病状等を理解することにより、心理的に安定し病気を自己管理する力や病状に即した生活習慣を形成する態度とよりよく生活しようとする意欲を育てる。

○学ぶ楽しさと学ぶ意欲を高める。

興味・関心・得意な分野等を自ら発見し、すすんで学習することによって得られる喜びをとおして、学びを大切にできる態度や意欲を高める。

○社会に積極的に参加し、自己実現をすすめる。

多様な体験を通して、コミュニケーション力やソーシャルスキルを身につけ、地域社会で周囲の人々とともに、積極的・自主的に活動し、自己肯定感を高め、自己実現をめざす意欲を培う。

「病気であること」「病気であったこと」を自己実現の学びの場ととらえ、それらを糧として成長する力を養う。

2 中期的目標

1 児童生徒一人ひとりの状況に合わせた学力向上と病気の自己理解による自立・自己実現への取組みの充実

- (1) 自立活動や総合学習を活用して病気や体調の自己管理を進め、心理的安定をはかりながら退院後の家庭や原籍校での生活に積極的に参加できる力を育成する。
- (2) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成と活用の充実を図る。また、児童生徒の特長を伸ばす支援体制の確立をめざす。
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、長期欠席等による未学習部分を補い基礎学力の定着を図るとともに、見通しをもって粘り強く取り組む力や他の児童生徒、教職員、医療関係者等との対話を通して自己の考えを広げ深めていく力の育成を図る。また、不足しがちな体験や観察などの体験的学習を補うため、各教科等でICTを活用した授業実践を進める。(本校、分教室、訪問をICTでつなぎ、仲間意識を育て交流をすすめる。)
- (4) 児童生徒理解及び人権の擁護、保護者支援、個人情報の保護等、児童生徒が安心して学校生活を送り、自らの生き方を考えていけるよう、計画的・継続的に教職員研修を実施し、教職員の資質向上を図る。
- (5) 各種病弱教育研究会への実践発表に取り組むことにより病弱教育の専門性を高めるとともに、保護者や病院関係者等との信頼関係を構築できる若手教員の育成を図る。

2 小・中で連続した、病弱支援学校としてのキャリア教育の推進

- (1) 小・中学生のキャリア支援において、学校全体のシステムを確立し、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた進路指導に取り組むとともに、高等学校等との連携を図り進学後の支援についても連携体制を整える。
- (2) 原籍校におけるキャリア教育と連携し、復学後、スムーズに教室に戻れるようにするとともに、病気のある児童生徒の将来を見据えたキャリア教育について検討し、よりよく生きる力を育成する。

3 継続支援及び地域連携体制の充実

- (1) 保護者や原籍校及び医療と計画的なケース会議を実施し、適切な学習指導・生活指導・保健指導について四者間で共有することにより、入院時から退院後、進学後までの継続した支援を行う。(退院後のアンケート回収率50%以上、アフターケアの充実をはかる。)
- (2) 地域連携部を中心に、地域社会で医療を必要とする児童生徒や本校に在籍した児童生徒の退院後のアフターケアをさらに推進する。
- (3) 病弱教育の理解を深める広報活動について、ホームページやリーフレット等の作成と配布並びに広報紙などを活用し、地域で生活している病気のある児童生徒へ教育支援を行う。
- (4) 「教育コミュニティ推進事業」を活用し、地域に対して「学びの場」の提供をおこない、支援学級との連携や病弱教育の理解啓発につなぐ。
- (5) 安全安心な学校づくりを目標に、保護者・病院と連携した防災教育、いじめ対応の充実を図る。

教職員の働き方改革について安全衛生委員会を中心に検討し、多忙感の減少、風通しのよい職場環境の充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 2年 11月～実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○対象：児童・生徒、保護者、医療関係者、教職員</p> <p>【児童・生徒考察】</p> <p>・「1、学校に行くのが楽しい」「2、授業が分かりやすい」の項目で「そう思う」の回答率が昨年度より上昇している反面、「だいたいそう思う」が減少、「あまりそう思わない」「そう思わない」が逆に増加しているのが特徴的である。前年度肯定的評価が37%と低かった「4、進路」にかかる項目は今年度53%に上昇した。昨年度までの反省をもとに、今年度意識的に進路に関し、児童生徒と話し合った機会が多かったものによると思われる。</p> <p>【保護者考察】</p> <p>・「1、学校に行くのが楽しい」「2、授業がわかりやすい」項目について肯定的評価が微減しているが、これは新型コロナウイルス感染症による休校措置の影響で、登校できることの喜びと、不安感の混在があるものと判断される。「8、地域校との連絡」「9、保護者との連絡」の「そう思わない」回答が0%となった。教員が意識して、地域校・保護者との連絡を意識して密にとり、またそれが定着していることの表れと判断できる。</p> <p>【医療関係者考察】</p> <p>・医療関係者のアンケートではおしなべて「だいたいそう思う」が「そう思う」を大きく上回っている。「そう思う」が多いのは「7、病気の子どもへの学校教育の必要性」項目のみである。日々の学校の取り組みの伝え方をより一層研鑽する必要がある。</p> <p>【教職員考察】</p> <p>「1、わかりやすい授業づくり」「9、児童生徒の心身の状況の理解」「5、児童生徒のプライバシー」の項目は、肯定的評価がほぼ100%であった。本校で重点が置かれている取り組み内容がまさにここにある、ということが見て取れる結果となった。</p>	<p>第1回 (7/6)</p> <p>○ 学校経営計画について</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大で在宅ワークも増え、これからはICTを使った学習に移行していくのではないかと。キャリア教育も大切である。ロボットプログラミング、「楽しく学ぶプロジェクト」等を活用して羽曳野支援ならではの指導を実施してほしい。</p> <p>○ 教科用図書について ○ ロボットプログラミング選手権について (連絡報告)</p> <p>○ グループについて・児童生徒がどのようにソフトを使用するのか？授業のノウハウを蓄積することが大切。グローバル化が大切。使いこなせるのか？保護者の指導、子どもたちへの指導が難しい。○ 授業動画の作成について (作成動画を報告)</p> <p>第二回 (11/26)</p> <p>○ つながるプロジェクトについて ○ 訪問教育 遠隔授業について</p> <p>・遠隔教育はどれくらいの頻度で実施するのか？ 回線の細さが問題ではないか？</p> <p>○ 学習発表会について ○ ロボットプログラミング選手権について</p> <p>○ 全病研発表について (連絡報告)・魅力的な発表をありがとうございました。ICTの活用で児童生徒の意欲の引き出し方がわかれば他の不登校生徒に伝わればいいのではないかと。慣れない場所で自分の意見をさらけ出すのは難しい。どうすれば本音をいえるのか？・本音を出さない子どもがいるのがポイントではないか</p> <p>第三回 (2/12)</p> <p>○ 学校教育自己診断アンケートについて ○ 令和2年度学校経営計画及び学校評(案)について ○ 令和3年度学校経営計画及び評価(案)について</p> <p>・結果はおおむね良い結果であり、教員はもっと自信を持ってよい。・これほど細かく評価をしているところはない。・コロナ禍でもすばらしい一年だったのではないかと。・新学習指導要領を踏まえた変化はあったか？計画に学習要領をどう反映させているのか？</p> <p>令和2年度学校経営計画及び評価(案) 令和3年度学校経営計画及び評価(案)を承認。</p>

府立羽曳野支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学 力 向 上 と 自 立 ・ 自 己 実 現 の 取 組 み	<p>(1) 自立活動、総合的な学習を通じて病気や体調の自己管理を進め、心理的安定をはかり、退院後の生活に積極的に参加できる力を育成する。</p> <p>(2) 全教科を通じて新学習指導要領に示されているプログラミング教育(プログラミング的な思考学習)に取り組む。</p> <p>(3) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の充実及び児童生徒の特長を伸ばす支援体制の確立をめざす。 ア 個別の教育支援計画・個別の指導計画が有効に活用、引き継がれるよう検証する。 イ 児童生徒の特長を伸ばす支援の確立のため、さまざまなアプローチについて研修をして技量を高める。</p> <p>(4) 「主体的・対話的で深い学び」の実現及び体験的学習を推進する。 ア 原籍校と連携した学習計画と ICT を活用した授業、交流活動、遠隔教育を実践する。中期経営推進事業に応募「楽しくともに学ぶプロジェクト(仮称)」の実現をはかる。 引き続き「魔法のプロジェクト」等に応募する。 イ 読書活動の推進</p> <p>(5) 児童生徒の個人情報の保護、安心安全な学校づくりの展開</p> <p>(6) 病弱教育の専門性を高めるとともに保護者や病院関係者等との信頼関係を構築できる若手教員を育成する。 ア 府内及び他府県の病弱支援学校と連携し、教員の専門性向上を図る。 イ 道徳教育の充実 ウ 若手教員の授業力及び教員力の向上を図る。</p>	<p>(1) 全部署を通じて病気や体調の自己管理を進め心理的安定をはかれるよう自立活動、総合的な学習で取り組む。</p> <p>(2) ア 全教科を通じ ICT 委員会作成の年間の実施計画をもとに、カリキュラムを策定しプログラミング学習に取り組む。自立活動、総合的な学習でも取り組む。 イ 全病連が取り組むロボットプログラミング選手権に参加する。 (参加に必要なロボットキットを必要数用意する)</p> <p>(3) ア 自立活動部を中心に個別の教育支援計画・個別の指導計画の記載内容の充実を図る。策定した手引書に沿った記載を実践する。 イ 児童生徒の特性に応じたアプローチについて検討し研修によりスキルアップをはかる。研修計画を年度当初に策定する。</p> <p>(4) ア 原籍校との連携により未学習部分を補い、基礎学力の定着を図ることで、児童生徒が粘り強く学習に取り組む姿勢を育成する。学校経営推進費事業に応募する。そのために管理職、首席、ICT 委員長、教務主任、室長、総務主任らでプロジェクトチームを作り基本計画を策定する。全分教室をつなぐネットワークシステムの構築をすすめる。分教室間、訪問先と本校、原籍校と分教室、病室(ベッドサイド)と分教室などをつなぎ、ともに学ぶ仲間との交流、孤独感、不安感の解消をめざす。 イ 部署での蔵書数の把握、(蔵書一覧の作成)バーコード化を図り、全校運用に向けた準備をすすめる</p> <p>(5) 全部署で持出し簿の確認・文書発送時のダブルチェックを継続するとともにヒヤリハットを全教職員で共有。未然防止に取り組む。</p> <p>(6) ア 全国・近畿等の病弱教育研究会に参加するとともに、実践発表を通して情報共有・情報交換を行い、教員の専門性の向上を図る。 イ 道徳教育の充実を全部署ではかる。 ウ 「病弱教育の専門性の向上のための研究」を3年間の研究テーマとし、教員が互いに学びあう機会を計画的に設ける。さらに、若手教員対象の研修を実施する。</p>	<p>(1) 全部署を通じて実施状況を調査し、病気や体調の自己管理、心の安定に役立つものであったかをアンケート調査で検証する。 (自立活動部が実施し、肯定率85%以上) (R1 肯定率80%)</p> <p>(2) ア 全教科を通じて実施し、実施回数、実施内容を研究誌に記載し、各教科での授業実践に役立ったかを、アンケート調査する。(研究部で実施し肯定率80%以上) (R1 調査せず) イ 参加可能な部署を募り予選を実施し、統一チームを結成し選手権に参加する。</p> <p>(3) ア 全教員で記載内容についての共通理解を深め実践。地域校へ引き継ぎ資料として役立つ内容かアンケート調査を実施(自立活動部で全教員に実施し肯定率85%以上)(R1 肯定率80%) イ 研究部を中心に研修計画に沿って研修を実施。アンケートにより効果測定。(研究部が全教員に実施し肯定率90%以上)(R1 肯定率90%)</p> <p>(4) ア すべての児童生徒について、原籍校と連携し、学習進度及び未学習部分の確認を行い、授業に取り入れる。ICT を活用した授業を全部署で実施し、インターネットを利用して各分教室をつなぎ交流授業を実施。(最低3回以上)学校行事等の全部署中継を実施。(学発等)</p> <p>イ ICT 委員会の協力をもとに相互貸し出しシステムの実施に向けたネットシステムの構築。とりわけ蔵書一覧の作成とバーコード化をすすめる。(蔵書一覧を作成し配布する。部署蔵書のバーコード化をすすめる。)</p> <p>(5) 持出し簿等の記録を集約し記載内容を確認(各学期)。運営委員会・全校職員会議で毎回、意識啓発を行う。ヒヤリハット事例の共有を徹底する。 (個人情報に関する事故事案0を継続)</p> <p>(6) ア 全国大会で病弱教育における国語の授業について実践発表。大阪病弱教育研究会加盟校として、府内の病弱教育担当教員を対象に研修(8月)・教材交流会(1月)に参加する。 イ 道徳教育の実践を大病研、近病連で発表、交流する。 ウ 全校研修(年間3回)を実施するとともに、業務上必要な基礎力アップをはかる。研修研究に必要な書籍を充実させる。</p>	<p>(1) 自立活動部にて全部署でアンケート調査を実施した。心の安定に役立つものであったとの回答は98%。(◎)</p> <p>(2) ア ICT 委員会作成のカリキュラムで段階を確認しながらプログラミング的な思考学習に取り組んだ。研究部でアンケートを実施(肯定率80%)(○) イ 本校、近大分教室2チームが参加した。地区大会を3位で通過し全国大会に出場した。(◎)</p> <p>(3) ア 自立活動部にてアンケート調査を実施した。地域校への引き継ぎ資料として役立つとの回答は88%であった。(○) イ 新たに作成した研修計画(3回)に沿って実施できた。研究部によるアンケートを実施した。(肯定評価95%)好評であった。(◎)</p> <p>(4) ア 転入してきた児童生徒全てにおいて原籍校との連携を行い学習進度及び未学習部分の確認を実施。ICT を活用した授業を全部署で実施した。分教室間の交流学习3回実施。本校から訪問生徒宅との授業。学発行事は3部署をネットで繋いで実施するなど環境整備をすすめた。 (本校でサテライト機能教室を2教室整備した。)(○) イ 読書推進委員会が ICT 委員会の協力をもとに全部署の蔵書目録を作成することができた。次年度、バーコードの貼り付け、タブレットを使った検索運用ができるようにすすめる。(○) (5) 教頭を中心に持ち出し簿の記載点検の徹底をはかった。機会あるごとに啓発と注意を促して継続中。 (個人情報に関する事故事案0を継続)(○)</p> <p>(6) ア 全病・近病の研究会には Web による情報交換に積極的に参加した。国語の授業についての実践を研究誌に紙面発表をした。(○)大病研の研修にも Web 参加した。 イ 研究誌に記載。(○) ウ 全校研修(年3回)実施。病弱教育必携などの書籍を全部署に配布した。(○)</p>

府立羽曳野支援学校

2 キャリア教育の推進	<p>(1) 小・中学生の進路支援において、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた進路指導に取り組む。</p> <p>(2) 病気のある児童生徒の将来を見据えたキャリア教育について検討する。</p>	<p>(1) 中学部の評価・評定システムを基に、小学部児童の評価・評定システムの検証を継続し、観点別評価の充実をはかる</p> <p>(2) 病種によって将来必要となる生活の在り方が異なるため、各部署の状況に応じたキャリア教育に関わる取組みを行う。</p>	<p>(1) 教育課程の変更に伴い、進路支援部を中心に教務部と連携し、観点別評価が適切に実施できているか検証する。 (進路支援部がアンケートを実施して肯定率 90%以上) (R1 肯定率 90%)</p> <p>(2) すべての教育活動を通して、キャリア教育に関わる内容を実践交流する。 (実践は、進路支援部が研究誌にまとめ検証する。)</p>	<p>(1) 新しい観点別評価の実施に向けて教務部と連携しながらシラバスの作成や各教科に周知を徹底した。 (アンケート実施せず) (△)</p> <p>(2) 進路支援部でキャリア教育に関わる実践交流を研究誌にまとめ検証した。 (○)</p>
3 継続支援及び地域連携体制の充実	<p>(1) 保護者・原籍校・医療と連携した継続支援を行う。</p> <p>ア 保護者・地域校・医療と連携したケース会議を実施。</p> <p>イ PTA 行事の推進</p> <p>(2) 地域社会で医療を必要とする児童生徒や本校に在籍した児童生徒の退院後のアフターケアをさらに推進する。</p> <p>ア 訪問教育の広報を強化する。</p> <p>イ 退院後の状況の把握。</p> <p>(5) 安全安心な学校づくりを目標に、保護者・病院と連携した防災教育、いじめ対応の充実を図る。安全衛生委員会を中心に教職員の働き方改革をすすめる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 保護者、医師、原籍校との連携のもと、児童生徒の状態に合わせて、ケース会議を行い、スムーズな復学をめざす。</p> <p>イ 保護者と児童生徒が共に過ごせる機会を設けるとともに、保護者間の交流が図れるよう内容を検討し実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 他病院で治療を受けている児童生徒の教育を受ける権利を保障するため、訪問教育についての理解促進を図る。</p> <p>イ 退院、卒業後の状況を把握し必要に応じて支援・助言を行う。</p> <p>(5)</p> <p>ア 災害時の対応について、年度はじめだけでなく、入級時に保護者と確認を行う。</p> <p>イ いじめの早期発見に向け、病棟と連携して、日々の連絡の中で、気になる状況があれば共有し確認する。いじめが明らかになった時にはいじめ対策委員会で迅速に連携対応する。</p> <p>ウ 安全衛生委員会によるストレス解消、メンタルヘルス等についての研修、レクリエーション企画等を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 医師との連携によるケース会議の実施 (100%継続)</p> <p>イ P T A 行事の評価アンケートで保護者間交流肯定率 80%以上をめざす。 (PTA 係でアンケートを実施回収する) (R1 調査せず)</p> <p>(2)</p> <p>ア 小中学校養護教諭研究会で訪問教育について説明する機会を増やす。 (南部の各市町村、3カ所以上で実施)</p> <p>イ 退院後アンケートの配布時期、内容を精査して回収率を上げる。 (地域連携部で改善をはかり回収率 50%以上)</p> <p>(5)</p> <p>ア 入級時の確認事項に、災害時の対応確認を追加する。(保護者との確認 100%)</p> <p>イ 年度当初に、いじめ対策委員会について全教職員で確認。校内研修の中にいじめ対応に関わる内容を入れる。 (年間 1 回)。</p> <p>ウ 職員のストレスチェックで示される指標について前年度より改善されているか確認する。 (改善箇所 2 か所以上)</p>	<p>(1)</p> <p>ア ケース会議を適切に実施し円滑な復学につなげた。 (100%継続) (○)</p> <p>イ P T A 行事を実施した部署での肯定率 100% (○) (1 部署実施。口頭調査を含む) ※ 5 部署でコロナにより中止</p> <p>(2)</p> <p>ア 三市でパンフレットを配布して実施することができた。 (○)</p> <p>イ 地域連携部を中心に回収聴き取りに精励。回収率 100% (◎)</p> <p>(5)</p> <p>ア 入級時の確認 (100%) (○)</p> <p>イ 年度当初の研修においていじめ対応を実施済。 (○)</p> <p>ウ 心身ストレスの疲労感、身体愁訴において前年より改善が見られた。 (○)</p>